

輝く未来を見据えた園芸産地の育成 ～JAはくいにおけるだいこん産地の再生と拡大～

中能登農林総合事務所

JAはくい管内にある羽咋市のだいこん産地は、県内のだいこん作付面積の約20%を占める能登最大の産地です。4つの生産組合で形成されていたことから、これまでは、それぞれ別の市場へ出荷していました。

しかし、近年は生産者の高齢化・後継者不足から生産規模が縮小傾向にあり、別々の市場に出荷する体制では出荷量がまとまらず、市場競争力が低下し、価格の維持が困難となりつつありました。

そのため、4つの生産組合の出荷先を統合して出荷を試みましたが、市場から生産組合間の選別のばらつきを指摘されたため、令和元年度にJAはくい園芸総合集出荷場（平成30年稼働）において、4つの生産組合の共同作業による洗浄・選別作業（以下、共同選果）の取り組みをスタートしました。

しかしながら、機械の処理能力の不足や、全てのだいこん生産農家が共同選果に参加しなかったこともあり、選別のばらつきはなかなか解消しませんでした。

そこで、当事務所の普及指導員が主体となり、①4つの産地全体のだいこんを共同選果するために必要な機械の処理能力を算出し、能力不足が判明した洗浄・選別機の増設をJAへ提案、②選別作業の効率化に向けた作業工程の見直し、③共同選果に参加していない農家に対しては、共同選果に参加した場合のコスト試算を提示し、共同選果への参加を誘導することについて重点的に取り組みました。

その結果、令和2年度に洗浄・選別機の増設に加え、だいこん生産者全員による共同選果も実現したことから、選別のばらつきが解消され、市場担当者からは「これまでよりも品質が揃っている」と高い評価を得るなど、産地の評価が向上しました。

また、作業工程の改善に取り組んだ結果、選果経費の削減、選果場の労働環境が向上したほか、生産農家の洗浄・選別作業の負担が軽減されたことで、新規就農者の受け入れ環境も整い、生産者数の増加・栽培面積の拡大につながっています。

今後は、集出荷場の運営コスト削減やスマート農業等による軽労化に加え、担い手の育成・確保の取り組みなどを進め、さらなる産地の拡大を目指します。



だいこんの洗浄・選別機
(JAはくい園芸総合集出荷場)



共同選果により品質・規格共に統一した
能登だいこん

問い合わせ先：農業振興部（0767-52-5522）